

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 環境厚生分科会	会議場所 第1委員会室	
		担当職員 池永	
日 時	平成27年8月18日(火曜日)	開 議	午後 4 時 4 6 分
		閉 議	午後 5 時 2 6 分
出席委員	明田 ○馬場 酒井 奥村 富谷 平本 小松		
事務局	池永		
傍聴者	市民 - 名	報道関係者 1名	議員1名(竹田)

会 議 の 概 要

1 開会

2 事務事業評価対象事業の選定

< 明田委員長 >

事務事業評価の抽出を行う。各自で検討した結果の報告を願う。

< 奥村委員 >

部で分け、環境市民部と健康福祉部から選ぶべきだと考えるが、項目については特
にない。

< 富谷委員 >

環境市民部 P 7、後期高齢者健診事業。平成 2 5 年は受診率が低く、府の平均に
達していない。これは 7 5 歳以上の人間ドッグであるが、受診率・再診率向上にど
のように取り組んでいるのか。また、国保で脳ドッグを受診したかったが、ハガキ
のみの申し込みで手続きの期間も短く、知らない間に終わっていた。もう少し、や
り方などを考えられないか疑問を感じた。 国保 P 2、収納率向上特別対策事業費。
平成 2 7 年度予算は 2 7 7 9 万円でプラスになっているが、目標はどうか、滞
納繰越分が達成できているのか。

< 酒井委員 >

環境保全対策経費の不法投棄パトロール。随意契約で行っているが、入札にかけ
る方が適切である。シルバー人材センターは随意契約で良いが、N P O 法人に随意
契約している理由が不明。 敬老事業経費。この財政状況の中で優先して継続的に
行っていくべき事業なのか。経費が前年より増加しているのは対象者が増えている
ので当たり前であるが、参加者は 3 割程度と言われており、参加される人も固定し
ている。そのお金で、もっと広く高齢者施策に必要なことを考えて、敬老の気持ち
を表す方法については、もっとお金のかからないことを考えてはどうか。温泉で御
膳を並べたりすることに 2 千万円も出ていくのはどうか。他市の状況ではなく、
本市の状況を考えて、バランス的にこれに出すべきかどうかを見していきたい。

環境市民部 P 2、アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費。開発と同時にやっ
ていくことで補助金がつきにくいようであるが、これからずっと保全のために経費
がかかるのは心配である。委託料の 4 7 0 0 万円で実際どんなことをしているのか
を見ていかなければいけない。経費がずっとかかり続けていくのであれば本市は大
丈夫なのか、補助金はどうやって獲得していけば良いのか、そのあたりをどう考え
ているのか、しっかり聞き審査していきたい。

< 馬場副委員長 >

環境市民部 P 1 0、ごみ減量・資源化等推進事業経費。ごみの分別収集の今後の展望を、具体的な搬出量を含めて聞きたい。

< 平本委員 >

自殺対策事業経費。本市において年間 2 0 人前後が自殺されている。経費は妥当か、取り組みはどのようにされているのか。

< 小松委員 >

介護保険事業特別会計 P 7、介護予防事業費。予防効果などを含め、事業が効果的にできているのか。事業が満足できるものであるのか。

< 明田委員長 >

3 項目程度に本日絞り込むのか。

< 事務局 >

そうである。

< 明田委員長 >

どのように絞りこめば良いか。

< 奥村委員 >

アユモドキを行いたい。

< 明田委員長 >

アユモドキの賛成者が 2 人となった。

< 酒井委員 >

何人賛成者がいるかではなく、皆で納得して決めたい。なぜアユモドキが良いと思ったのか説明を。

< 奥村委員 >

市の単費で 4 ～ 5 千万を 3 年間、予算をつけて決算をしてきているが、その内容はどうか。報告書も出ていない。平成 2 8 年度もするとなれば困る。補助金があるならまだしも、単費ではいきすぎではないか。スタジアム建設のためやむをえないところもあったが、3 年を経過したので結論を出したい。

< 馬場副委員長 >

自分は逆の立場である。アユモドキは守らなければならない存在である。あの地域については、農水省の時代から補助金獲得の努力をしてこなかった。もっとしっかりと補助金を獲得し、3 年間やってきた事業が、実証実験の結論にどう影響するのか、そこを推進するために決算を見てみたい。

< 明田委員長 >

アユモドキについて反対意見はあるか。

[反対なし]

< 明田委員長 >

では、1 つ目はアユモドキで決定する。

< 奥村委員 >

ごみ減量が良い。先日埋立処分場に視察に行ったが、広大な土地もあり、今後どうなるのか。ごみの減量化を含めて、今後どのように取り組んでいくのか十分に把握する必要がある。

< 酒井委員 >

ごみの減量化は大事であるが、事務事業評価表にあてはめて評価しづらい項目である。どちらかといえば年間テーマで取り組む方が良いのでは。

< 馬場副委員長 >

むしろ福祉の方が量的に捉えるのが難しい。ごみは排出量など具体的で、評価しや

すいのではないか。福祉の方が評価が難しい。

<奥村委員>

今年から小型家電リサイクルもやっていくが、自治会によっては協力いただけないところもある。そのあたりも含めて話を聞きたい。

<明田委員長>

2つめは、ごみ減量に決定する。もう一つは健康福祉部から選んではどうか。

<酒井委員>

敬老事業経費は、これから続かないことが分かっているのにどうするのかと、前期からいろいろ言われていた。しかし、話し合いの中で考えていくと言うばかりで進展が見られない。担当課としても自分たちから無くすとしにくいものであり、議会が見ていくのにふさわしいテーマである。怒る人もいるかもしれないが、そういうことこそ議会が話し合っていてやっていかないと、切りにくいものがどんどん残っていて、必要なところにお金がまわっていない状況である。敬老事業を選定しないのなら、皆はどのような考えを持っているのか聞きたい。喜んでいる人はいるかもしれないが、自治会の負担も大きい。3年くらい連続で言ってきた問題であり、採用してほしい。

<馬場副委員長>

旧亀岡地区では、亀小生が高齢者と交流するところもあり、涙を流して喜んでいる人もいる。費用は自治会が半分負担、市が半分補助してやっているが、自分のところの自治会では、寝たきりの人にも同じ事業費で記念品を渡しに行って声掛けをしている。自治会によって取り組み方が違うので、差をよく見るべき。

<富谷委員>

敬老事業縮小には反対。少数であっても喜んでいる人がいるので残してほしい。高齢化の中、参加する年齢を上げるなど事業にかかるお金を縮小することなどはありうるが、現状では必要な事業であると考えます。

<奥村委員>

予算は以前からあまり変わっていない。対象者が多くなる分、年齢を上げて合計を一緒にするなど苦労をしていると考える。子どもたちの発表会の場であったり、地域の方がボランティアで出られたり、コミュニケーションをよくとっている自治会も多く見られる。できれば各自治会がどのようなことをしているのかをまとめていただき、各町の状況を把握しておきたい。敬老事業を採用することに賛成する。

<酒井委員>

必要な事業だから続けていきたいが、このままのやり方では続かない。続けられる形の模索をしているかどうか。言い出しにくいから話ができていないのか、3年たっても同じようなままである。考え方を変えれば、自治会ではなく、いろいろな主体が、敬老の意を表するために補助金を申請し、身近なところでこじんまりとやっても良い。やり方はいろいろある。やめたら良いというわけではない。

<小松委員>

自治会長をしていた経験から言うと、敬老会の準備の段階で、町内の役員が名簿を頼りに高齢者を訪問し、案内状を出したりする。町内の役員は毎年変わるが、そのことによって地域のつながりや高齢者との関係が続いていく。参加率は低いですが、それ以上に地域力に繋がっていくものである。災害が起こった時に高齢者をどうやって助けるかということなど、全てに繋がってくる。敬老会は続けられるなら続けてほしい。目に見えない部分で費用対効果があるのではないかと。

<明田委員長>

引き続きやっていこうという評価をすることもできる。項目としてあげた方が良いということか。

<小松委員>

あげる必要はない。

<平本委員>

敬老事業は継続していきたいと考えているが、どのようにしたら継続していけるのかを含め、項目としてあげても良いのでは。必要なものはすべきであるし、削減できるのであれば削減していけばよい。継続できる方向で再検討をしては。

<明田委員長>

地域によって全然思いが違う。新興住宅地などでは出席率などの問題で、止めたら良いという意見もあるようである。一方、出席率が70～80%と高いところもあると聞く。そのようなことも含めて、これを項目として取り上げるかどうか。それとも他の項目にするか。

<酒井委員>

敬老事業でどうか。続けていくためにどうなのかということなので、いろいろな視点があって良い。

<奥村委員>

「充実」でも良いと考える。

<酒井委員>

金額の拡大ではなく、中身を見ないといけない。

<馬場副委員長>

小松委員の意見は重要である。だからこそ取り上げ、地域力が弱い地域について市はどう考えているのか、議会としてどう関与していけるのかを探れるように、敬老事業で決定してはどうか。

<明田委員長>

敬老事業で良いか。

<全員了>

<明田委員長>

では、敬老事業経費、アユモドキが棲み続ける環境保全事業経費、ごみ減量・資源化等推進事業経費の3点を、当委員会の抽出事業とする。

<事務局>

次回は論点整理を行っていただく。実際に使用する調書で論点整理を行うことが望ましいということもあり、当日の評価調書を早めに提出してもらうよう執行部と調整している。9月15日に提出予定なので、それを待って論点整理を行ってはどうか。その場合、日程案としては、9月18日の常任委員会の議案審査終了後でどうかと考えている。

<明田委員長>

それで良いか。

<全員了>

<酒井委員>

論点整理の前に、事務局にお世話になりたいことがあるので委員長から言っていたきたい。この3事業について、今まで委員会の中で出てきた議論の論点を出して配付しておいていただければ、新しい委員も経過が分かる。同じことを聞かなくてすむように、執行部から出された敬老事業の他市の状況などをお願いしたい。また先ほどの各自治会が何をやっているのかという疑問を前もって伝えておき、資料と

してまとめておいていただきたい。

<事務局>

今までの会議録をまとめるという形ならば可能である。

3 その他

[特になし]

散会 ~ 17 : 26